



をえない事情も分かります。

ちょうど僕たち夫婦の学生時代が転換期でした。それまでは「歯科学生のうち十分に

経験をして社会に出る」という風潮があり、卒業してすぐに開業するといった兵もいましたが、「資格もない学生が治療をしているなんて何事だ」と言われるようになったのです。もちろん正論ですから大学も従わざるをえなくなり、学生時代は臨床実習という名の見学になってしまい、実際の研修は臨床研修医（国家試験合格後）になってからという時代に変わってきました。一般の方は「臨床実習をするのが少し遅れるだけ」と思われるでしょうが、問題はそんなに

簡単ではありません。見学の歯科学生がいるうえに今までいかなかった臨床研修医がいるのですから実習場所が倍必要なのです。大学病院では研修医のいる場所すらないというのが現状です。そんな時代が生み出したのがロボット患者なのです。

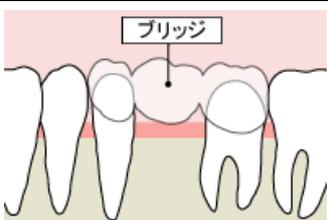
このようにすべての事情が分かっただうえでいうと、初めて相対するのがロボットなどという時代は悲しいものです。いい医者は人が作るものなんですから。

ブリッジと歯の角度

すごく当たり前の話をすると、前歯は少し前方に傾いていて、奥歯（臼歯）は垂直に並んでいます。しかも、すべての歯にはそれぞれの角度があ



り、機能するのに有利な構造となっています。前歯はものを食いちぎるのに有利なように、奥歯はすりつぶすのに有利なように。これがすべて同じ角度だと獅子舞の獅子の歯になってしまいます。見た目にも問題がありません。



問題は何本かの歯を失ってブリッジという形態になったときです。角度の違うものを一体化してしまうというのは基本的に無理のある構造です。もちろん、審美性や機能の問題から義歯ではなくブリッジを選択することはあるのですが、それだけのリスクもあります。やっぱり歯を失わないのが一番ですね。